

JA全農WEEKLY

2
面

第43回通常総代会を開催 (総務人事部)

6面

輸送効率化へ肥料のパレット物流スタート（福島県本部）



福島県本部のパレット物流出発式でテープ
カットする関係者(6面)



「渋谷ロフト」で開いた全農グループの国産農産物加工品などの展示・販売(2面)



平成30年度事業報告などの議案を承認した第43回通常総代会(2面)

- ## 2 「渋谷ロフト」で国産農産物加工食品を 展示・販売(営業開発部)

- ### 3 理事長就任のごあいさつ

- #### 4-5 役員の顔ぶれ

- ## 6 乾しいたけの日 東京・銀座で開催(麦類農産部)

- 7** 夏の高校野球は、今年もBS朝日で！
47都道府県の「どんぶり」でスポーツを
応援！（広報・調査部）

- ## 和牛甲子園の参加校募集スタート (畜産総合対策部)

- 8 三重県産「マイヤーレモン」使った
「ナイススティック」好評販売中
(三重県本部)

JAタウンショップ紹介

しまね・うまいもんくらぶ
(株)JAアグリ島根)

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

**Web
限定**

**卓球・全農杯
小学生以下の全国大会開催
全農グループ取扱商品をPR
(広報・調査部)**

高校球児向け栄養教育プロジェクト 経過報告(広報・調査部)

News!



平成30年度事業報告などの議案を承認

第43回通常総代会を開催

総務人事部

全農は7月26日、東京都内で第43回通常総代会を開き、平成30年度事業報告などの議案が原案通り承認されました。

開会あいさつで長澤豊会長は「自己改革に終わりはない。今後も、『すべては組合員のために』、そして消費者、国民のために『自主・自立の精神で、不断の改革を続けていく』と述べました。

その後、映像も使い平成30年度事業報告について説明しました。取扱高は4兆5925億円と計画比100%となり、経常利益、当期剰余金は計画を上回りました。出資配当は計画通り2%と提案し、承認されました。

また、総代会後の経営管理委員会で、理事の選任が行われました。



総代会であいさつする長澤会長



記者説明会で抱負を述べる山崎理事長。右は野口専務、左は桑田専務

News!



「渋谷ロフト」で国産農産物加工食品を展示・販売

安全・安心、おいしいなどと評価、今後の商品開発へ

営業開発部

営業開発部は6月28日から7月9日、東京・渋谷の生活雑貨店「渋谷ロフト」で全農グループの国産農産物の加工食品を中心とした展示・販売を行いました。

営業開発部は全農パールライス(株)、全農協食品(株)、協同乳業(株)、全農各部署と連携し、精米、パックご飯、カレー、飲料、菓子などを販売しました。米の販売では、産地から派遣いただいた「ミスクリーンライスあおもり」「ミスあきたこまち」が店頭に立ち、積極的にアピールしました。また、ドラ

イフルーツ・おにぎりの人気投票も行い、「カボス」「肉巻き」が一番人気となりました。お米の栽培過程を表したパネルの掲出などにより、農業や食に関する理解を深めてもらう他、「JAタウン」のPRも行いました。

お客さまからは、国産で安全・安心、おいしいなどの評価をいただき、今回の成果を今後の商品開発につなげていきます。



多くのお客さまが訪れたご当地食材のおにぎりやJAタウンPRコーナー

飲料・菓子の展示コーナー

5年後、10年後を見据え その先にレールをつなぎ、力強く走り続ける

代表理事理事長

山崎 周二



7月26日に開催された経営管理委員会において、代表理事理事長に選任された山崎周二です。就任に当たりご挨拶と所信を述べさせていただきます。

全農は平成28年度から始まった中期3か年計画で、①持続可能な農業生産、農業経営づくりへの貢献、②海外事業の積極展開、③元気な地域社会づくりへの貢献、の3つの重点方針を掲げました。

また平成29年3月には「農林水産業・地域の活力創造プランに係る本会の対応」を組織決定し、全部門、全役職員一丸となって自己改革に取り組んでまいりました。

これまでの取り組みとその成果については、一定の評価をいただいていると認識しておりますが、自己改革に終わりはなく、今後もさらに進化・深化させる取り組みを進めます。

このたびの通常総代会においてこれらの結果についてご報告を行い、併せて平成30年度経営概況として取扱高4兆5925億円、計画比100%、経常利益、当期剰余金ともに計画を上回り、出資配当は計画通り2%を実施することで、ご承認いただきました。

本年度は新たな中期3か年計画を3月の臨時総代会で決定し、その初年度となります。中期3か年計画においては、「すべて

は組合員のために、そして消費者、国民のために」という基本姿勢のもと、引き続き自己改革の取り組みを加速していくとともに、急速に変化する生産・流通・消費構造や海外情勢に対応するため、5年後、10年後を見据えた取り組みを展開します。

中期3か年計画のキャッチフレーズは、「全力結集で挑戦し、未来を創る」です。このキャッチフレーズには、将来を見据えて全国で結集し、かつ全力で自己改革を完遂するとともに、新たな事業領域に果敢に挑戦して未来を創っていく、という決意を込めています。

5年後、10年後を見据えて本会の目指す方向は以下の柱とし、これに基づき関連施策を具体化します。

第一に、国内の農業総産出額の計画的・段階的な拡大に向けて、作物別・品目別に戦略を策定し取り組みます。

第二に、生産拡大する作物別・品目別の販売戦略もしつかり構築します。

第三に、元気な地域社会づくりに取り組みます。

第四に、海外動向の急変に対応した新たな海外戦略を構築します。

これらの取り組みを実現するためには、これまでのJAグループ内の機能分担を見直し、JAグループ全体で事業運営コスト

を抑制する必要があります。そのため、本会の経営資源の最適配置も含め、JAと十分協議して進めます。

また、子会社も含めた全農グループの総合力発揮とグループ経営の確立により、JAグループ・本会の事業を拡大し、会員への還元を最大化します。

特に「農業総産出額の拡大」に向けた重点施策として、「生産性を向上させる新技術」と「不足する農業労働力の支援」、「ICTの活用」などを掲げています。こうした取り組みにより農業における事業承継や新規就農をバックアップし、持続可能な農業の実現を通じて、食料自給率の向上と地域創生に貢献していきます。

さらに、労働力支援を核に、農泊や農福連携にも、本会として主体的にかつ積極的に取り組み、地域の活性化を支援します。

全農は前3か年において、改革に向けたレールを敷き、さまざまな取り組みを行ってまいりました。今3か年では、その先につながるレールをつなぎ、全農グループ役職員一丸となって、力強く走り続けます。

今後とも引き続き全農グループの事業運営につきまして、ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

JA全農 役員の顔ぶれ

経営管理委員・理事・監事・参与の顔ぶれを紹介します。

経営管理委員



うちだ かずゆき
内田 和幸
ホクレン農業協同組合連合会
代表理事会長



かんの ゆきひろ
菅野 幸雄
愛媛県本部 運営委員会 会長



おおさわ けんいち
大澤 憲一
群馬県本部 運営委員会 会長



ながさわ ゆたか
長澤 豊
山形県本部 運営委員会 会長

経営管理委員会 副会長

経営管理委員会 副会長

経営管理委員会 会長



いまい ちようじ
今井 長司
新潟県本部 運営委員会 会長



たかはし たけし
高橋 武
栃木県本部 運営委員会 会長



さの おさむ
佐野 治
茨城県本部 運営委員会 会長



ふなき こうたろう
船本 耕太郎
秋田県本部 運営委員会 会長



いしかわ としき
石川 寿樹
島根県農業協同組合
代表理事組合長



なかで あつふみ
中出 篤伸
奈良県農業協同組合
経営管理委員会 会長



なかがわ やすひろ
中川 泰宏
京都府本部 運営委員会 会長



あだち よしお
足立 能夫
岐阜県本部 運営委員会 会長



あらかわ たかし
荒川 隆
農林水産行政



しんもり ゆうご
新森 雄吾
宮崎県経済農業協同組合連合会
代表理事会長



いずみ よしひろ
泉 義弘
長崎県本部 運営委員会 会長



かねこ みつお
金子 光夫
山口県農業協同組合
代表理事組合長



いしづか くにお
石塚 邦雄
企業経営経験者



たかはし としひろ
高橋 俊裕
企業経営経験者



やまざき ひさし
山崎 恒
弁護士



しまだ ひろゆき
嶋田 裕之
協同組合

理事



桑田
義文

代表理事専務



野口
栄

代表理事専務



山崎
周二

代表理事理事長



高尾
雅之

常務理事



久保
省三

常務理事



安田
忠孝

常務理事



吉見
均

常務理事



齊藤
良樹

常務理事



倉重
徳也

常務理事



竹本
尚史

常務理事

参与



今野
邦仁

全国農協青年組織協議会会長



大西
茂志



大河原
秀二郎



榎本
健蔵



笠田
幸美

J A 全国女性組織協議会理事



秋川
健次

企業経営経験者



原田
昌平

公認会計士



小宮山
澄枝

弁護士

監事



福島県本部

福島県本部では
全体の約4割が一貫
パレチゼーション輸
送に切り替わる予定
です。

7月7日は、
そうめんの日と
乾しいたげの日です。

味の匠



味の匠

夏の高校野球は、今年もBS朝日で！



8月6日(火)～8月21日(水)

全試合完全生中継 【広報・調査部】



全農は昨年に引き続き、BS朝日の高校野球中継番組に冠協賛します。

同番組では、“どどーん!”と「どんぶり」スポーツ応援

キャンペーン”CMと、全国47都道府県の生産者出演CM(昨年も好評!)を放送します。

夏の高校野球は、ぜひBS朝日でお楽しみください。



47都道府県の「どんぶり」でスポーツを応援！

昨年12月からJA全国女性組織協議会と全農の共同企画「どんぶり47プロジェクト」を実施し、47都道府県のJA女性組織がスポーツを頑張る子どもたちに向けてレシピを開発しました。

8月2日から開設する、どど〜ん!と「どんぶり」スポーツ応援キャンペーン特設サイトでは、そのレシピと抽選でお米1俵が当たる47のどんぶりクイズを紹介しています。

卓球ワールドカップが行われる11月末までキャンペーンを実施します。

全農はこれからも、高校野球をはじめ、いろいろなスポーツを「どんぶり」で応援していきます!

特設サイトはこちら <https://dodontodonburi.com>



「第3回和牛甲子園」の参加校募集スタート

全国の農業高校などに案内、締め切りは9月20日 【畜産総合対策部】

全農は、来年1月16、17日に東京都港区で開催する第3回和牛甲子園の参加校の募集を始めました。

和牛甲子園は、和牛を肥育する全国の農業高校の生徒、高校球児ならぬ“高校牛児”たちの大会です。肥育に関する日頃の取り組み内容と、育てた和牛の肉質を競います。

全農は7月8日から、公益財団法人全国学校農場協会・全国農業高等学校長協会を通じ、全国の農業高校などに参加校



の募集を始めました。9月20日まで応募を受け付けます。“高校牛児”たちの熱い戦いにぜひご期待ください。



第2回和牛甲子園の枝肉勉強会の様子

三重県産「マイヤーレモン」使った 「ナイススティック」好評販売中



まろやかな酸味生かした夏向き商品

三重県産「マイヤーレモン」を使った「ナイススティック」が、山崎製パン(株)から好評販売中です。

【三重県本部】

「ホワイトナイススティックレモンジャム&レモンクリーム」は、三重県産マイヤーレモンの果汁を使用したジャムとクリームを、しっとりとした白生地のパンにサンドしています。爽やかでさっぱりとした味が、夏向きの商品となっています。

東海・北陸地区(愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山の各県全域と静岡、長野各県の一部)のスーパーなどで、9月末まで販売の予定です。

マイヤーレモンは、オレンジとレモンの交配種といわれ、酸味が少

なく、まろやかな味で香りがよいのが特徴です。皮が薄く果汁も多いため、料理や加工にも適しています。日本での生産はまだ少なく、JA伊勢三重南紀地区(熊野市、御浜町、紀宝町)は国内有数の産地となっています。



実は黄色で、一般的なレモンよりも丸みがある



三重県産マイヤーレモンを使った「ホワイトナイススティック」



「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン
ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

しまね・うまいもんくらぶ (協JAアグリ島根)



島根県産 シャインマスカット
1房(約700g).....4500円

最近は大粒で種がなく、皮ごと食べることが出来る「ぶどう」が人気を集めていますが、「シャインマスカット」もその一つ。「シャインマスカット」の最大の特徴は、抜群の甘さ。しかも酸味がほとんどないので、より一層甘さを実感できます。

薄緑色の果粒を1粒頬張ると、皮のサクッとした食感に続き、締まりの良い果肉がはじけ、強い甘味と香りが口いっぱいに広がります。

この時期限定の旬の味覚をぜひご賞味ください。

「しまね・うまいもんくらぶ」は、JAタウンアワードを3年連続で受賞しており、ショップでは、旬の青果物、しまね和牛、米、加工品など、島根のオススメ商品を多数販売しています! ご贈答用に、ご自宅用に、ぜひご利用下さい。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。